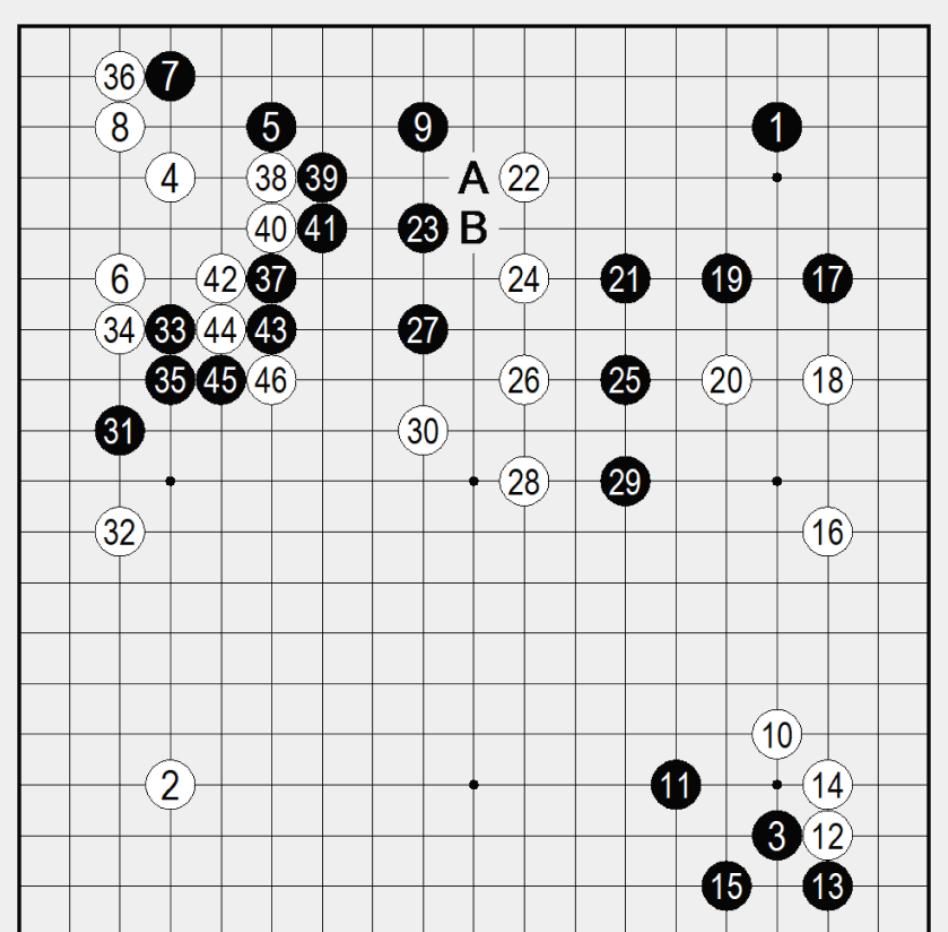


☆棋譜診断シート☆

(棋譜診断士 河合将史 六段 2023年12月)

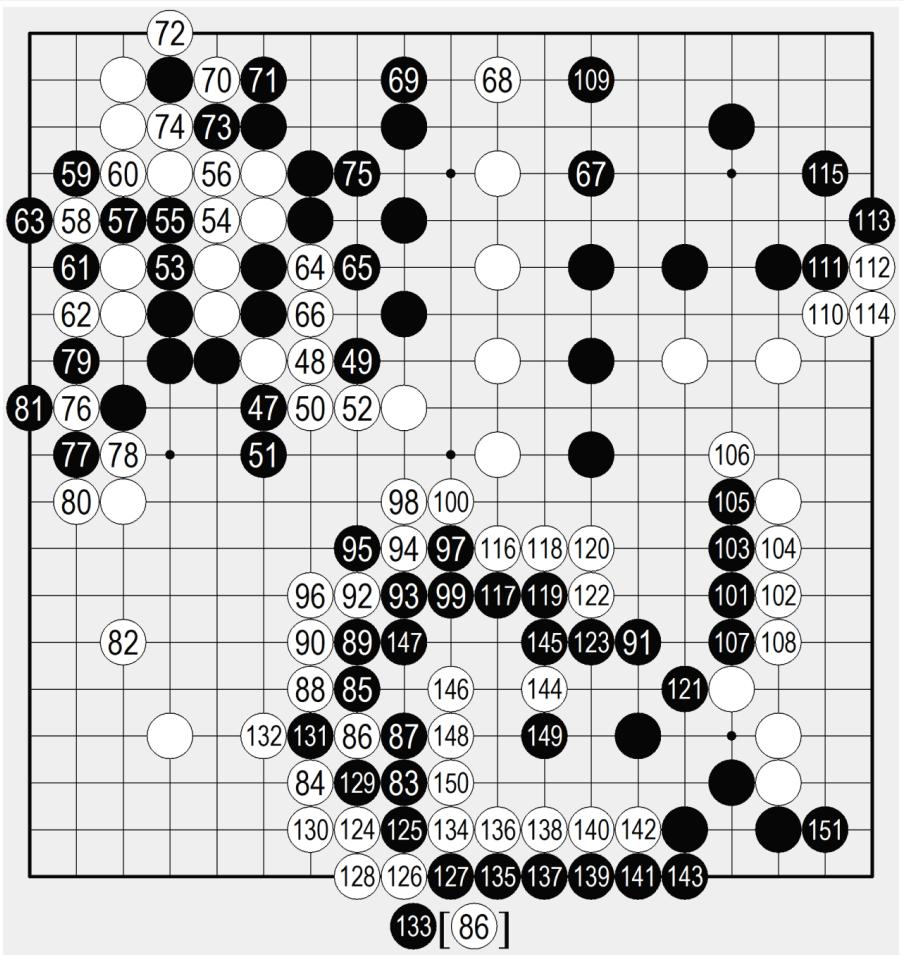
● 対局太郎 様 3級 ○ 暮敵二郎 様 2級 151手以下略 黒中押し勝ち

(1 ~ 46)



- 最近では珍しい向かい小目の出だしですね
- 白16まで、昔からの代表的な定石がふたつ、ですね！
- 黒17は下辺に先行した方が良いか？という質問を
いただきましたが、むしろ黒17のシマリを自分（河合）
だったら打ちたいです(^-^)。
もちろん下辺へもあるでしょう。
- 黒21は上辺重視で、立派な手ですが、
左下エリアへの先行も布石としては大きい手です。
- 白22は、気合の入りで一案ですが、Aの肩付きの方が、
やや安全かもです。（次、黒のBを考えておく必要あり）
- 黒23はBのカケもありそうですが、23 & 25は、
捉え方として良いです →[好手資料](#)
- 黒31～37は悪くないですが、地の面では、白32や
36に打たれ、黒が得しているとは言えないので、
→[参考資料1](#) ・白は38～仕掛けていきましたが、
44や46は打ち過ぎで、→[参考資料1, 2](#)

(47～151手まで、以下略)

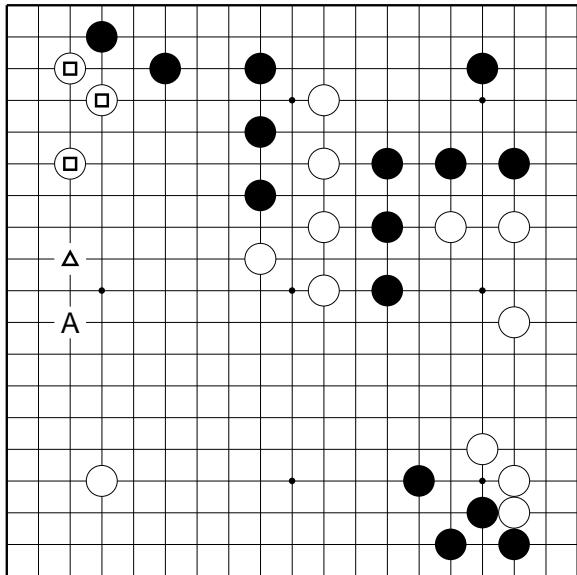


- ・黒47～は、すぐに53～でしたね。
- ・白52では64に切るチャンスでした→参考資料2
- ・黒53～が良い方針で、63まで優勢です(^-^)→好手資料
- ・黒73は疑問手になってしまふ場合も多いため、必要ない手は保留する習慣にしていきましょう→参考資料3（黒75は関連）
- ・黒83～91が大きく良い感じで、優勢が続いています
→好手資料 ・黒97は99と打たないと危険で(^-^;、
白98で147と切られると両アタリで、黒が困っていました。
- ・黒101では右辺を分断する手はないか、それで黒地の方が痛まないか？というご質問をいただきました→参考資料3～5
- ・黒109は大きい所で、引き続き優勢です(^-^)
- ・黒133のツギは134の所を守る必要があり、
135、137は危険でした(/・ω・)/
- ・白138は140にカケ（ゲタ）で、
黒を取る手があったのを確認してみてください！
- ・黒139～は一瞬のピンチ脱出で、151で勝勢です(^-^)

★序盤は、落ち着いた持ち味で良いですね(^-^) ★左上エリアの戦い、接近戦では、力強さがありましたが、課題も少しありましたね！ ☆下辺83～109までの先行力、段取りは良く、長所とみました(^-^) ★ご質問の右辺はより良い図もあったようですが、形勢が良いので、実戦の進行は試合巧者と言えます。 ☆下辺は一瞬危なかったですかね(^-^;、
★全体を見ながら自然な感じで打たれているのがとても良いです(^-^) ★簡単な手筋や読み力などを鍛えられると、もっと良くなれるでしょう！

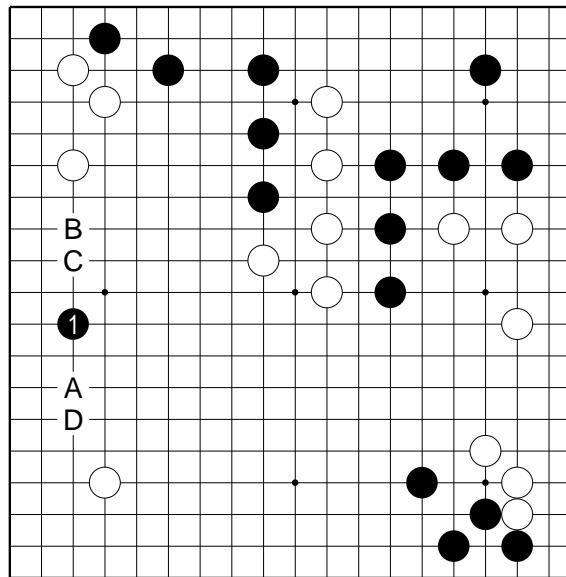
※自分の診断ではレーダーチャートは省かせていただいている m(_)_m

参考資料 1



(3 1)

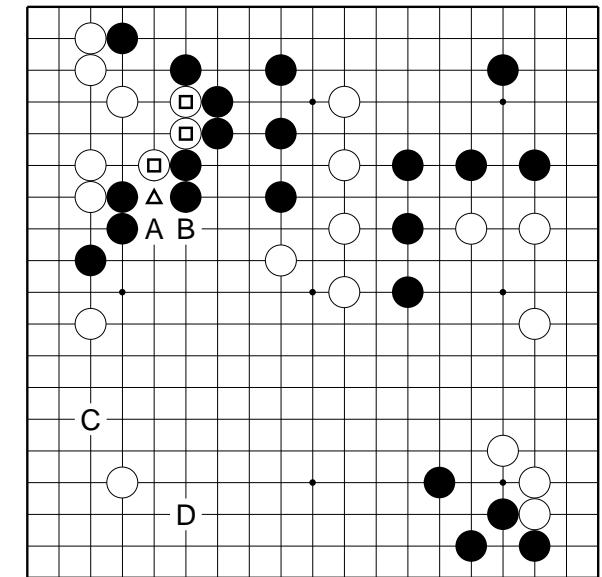
黒△は、白□の攻めを狙い、
得が出来そうな感じがあれば良いですが、
それほどでもなければ、
黒Aくらいの方が、無難です。 →→



(左図から)

黒1なら、わかりやすく、
損得的にも、間違いはないですね。
白Aなら黒Bですし、
白Cなら黒Dですから。

黒1をDなど普通に掛かるのも、
もちろん悪くないです。

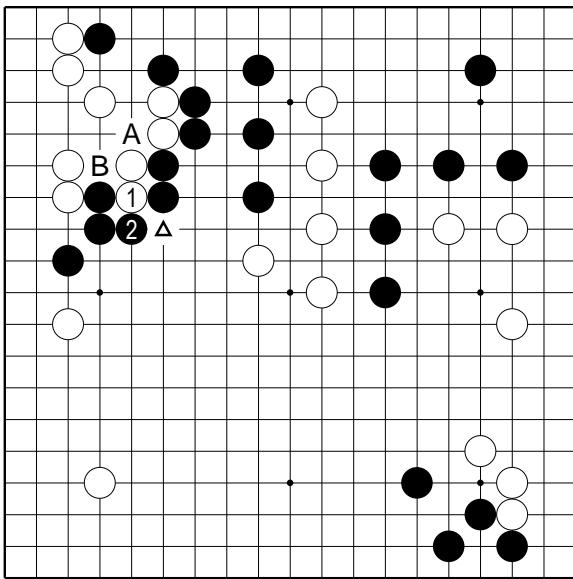


(4 4)

白□はダメが詰まっているので、
白△、黒Aになったとしても、
白Bとは少し切斷しにくいかな、と、
(何かトラブルが発生しそうで)
ここで気が付けば立派なものです。

この場面では、白はCやDなどに先行する感じですね。
※ただ、白△と打ち、黒Aとなった後でも →参考資料2へ

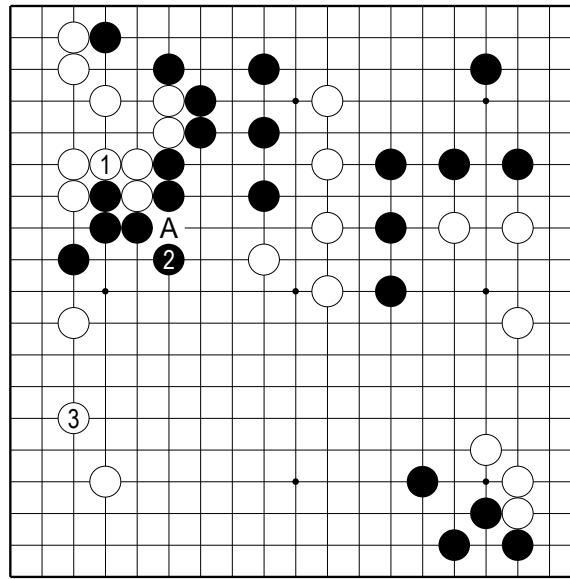
参考資料 2



(参考資料 1 から)

白1、黒2の時、白△に切ろうと
予定していたところ、ここで、
はたと自分の弱点に気づき、
手が止まれば、まだ大丈夫です→→

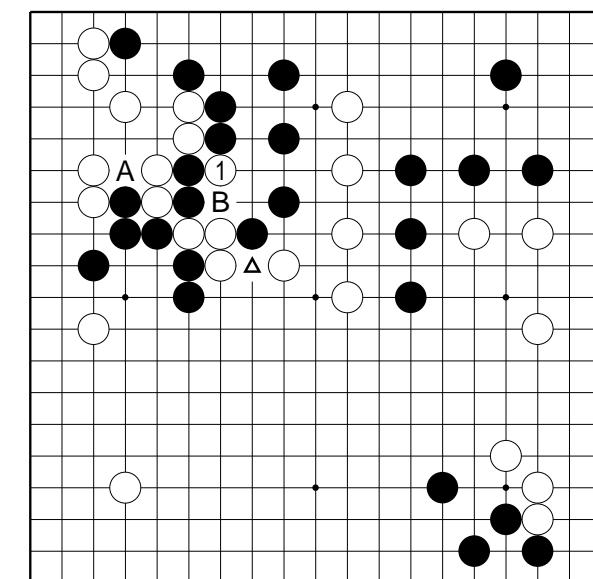
黒Aと両アタリにする手や、
黒Bにアタリにする手が、
急に発生していますね。



(4 6)

白は、実戦 A と切った手では、
白 1 に守るくらいでした。

今度は白Aと切る手が厳しく、
効果的になりそうなので、
黒も2などに守るくらいです。
そこで白は3などに打てば、
白は問題がなかったです。

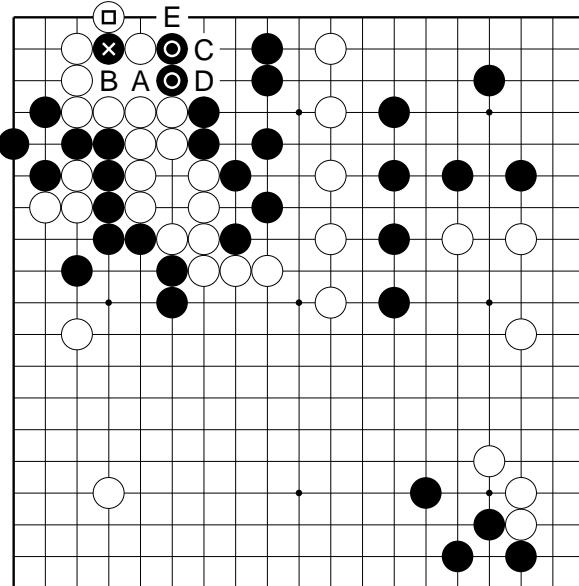


(5 2)

白△では、白 1 の切りに気づけば、
(黒 2 子を取っていますね)
逆に、かなりの得があるところでした。

黒Aには、白Bで、黒2子を具体的に
取ってしまえば良く、実戦のように
黒に左辺を破られることもなかったです。

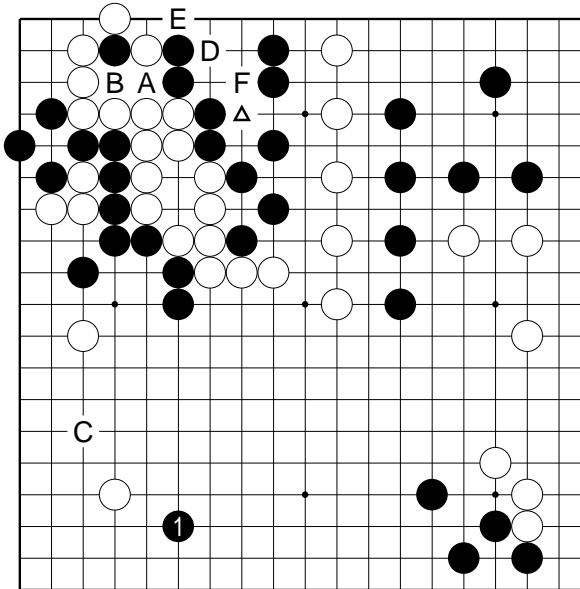
参考資料 3



(73)

囲碁が上達していく過程で、
出来るだけ早く身につけてほしい事の
ひとつに、この場面があります

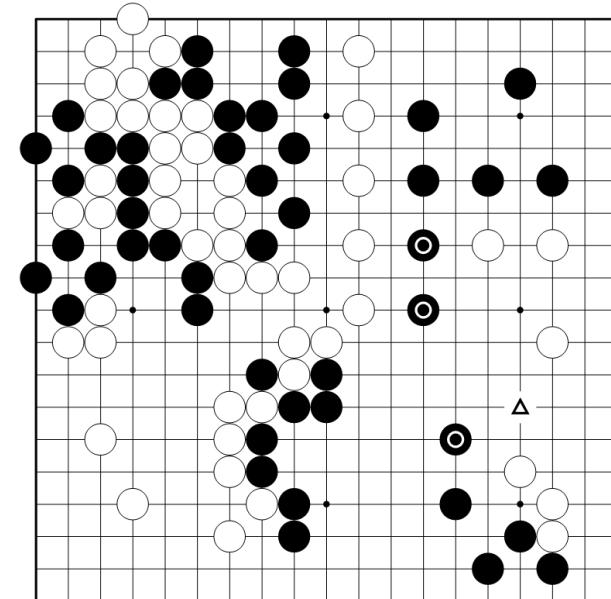
白□と打った場面。黒は×が取られて
しまったと気づくわけですが、ここで、
つい黒 A と打ち、白 B としてしまう事が多い
です。何か意味がある場合を除き、
たいていマイナスです。この場合だと、
その後、白は C にツケる手が可能になり、
黒 D、白 E で、少しですが削られています。
(黒 D を E は、白 D で黒が取られ、です)



(左図の続き～75)

実戦は、黒 A、白 B の交換があったためか、
黒△に打たれましたが、気持ちはわかります。
ダメが詰まっていると、少し気持ちが悪い
ですからね。(実際には、黒は手抜きが一応、
可能ではありました)

逆に、その交換がなければ、黒一団の危険度の
感触が、少し違うのがわかりますか？
この状態だと、黒 1 や C などへの先行が
はっきり可能です。白△などの急所攻めなどに
も黒 F で大丈夫です (白 D には黒 E です)



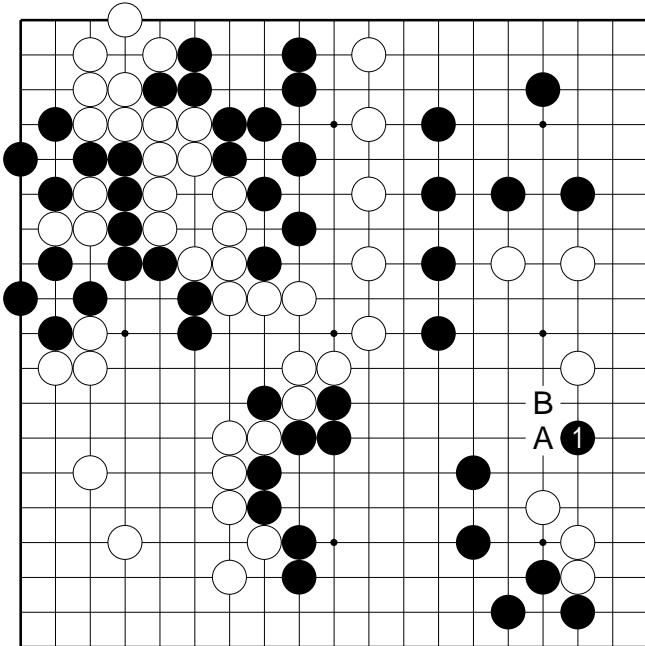
(101)

「黒△の手では、右辺の白地を分断する手があったかどうか、
又、黒地が痛まないか？」

というご質問をいただきましたが、

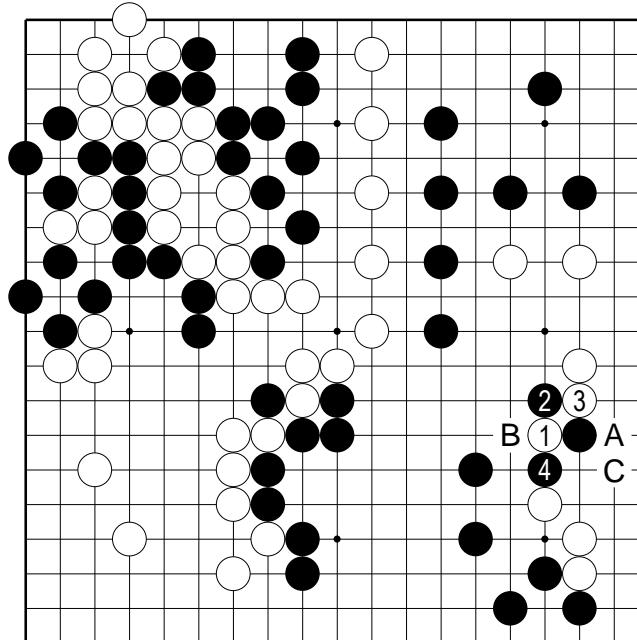
結論から言うと、
黒○などがあるので、
分断できるかどうかは、白の対応にも
よりますが、左側の黒地を傷めず、
普段よりは効果をあげる手が、
ありそうです。→参考資料 4～

参考資料 4



(参考資料3から)

代表的な手だけをご紹介しますが、
実戦の黒Aよりは、黒1の方が
厳しく、効果が出そうです。
黒1には、白AかBでしょう →→



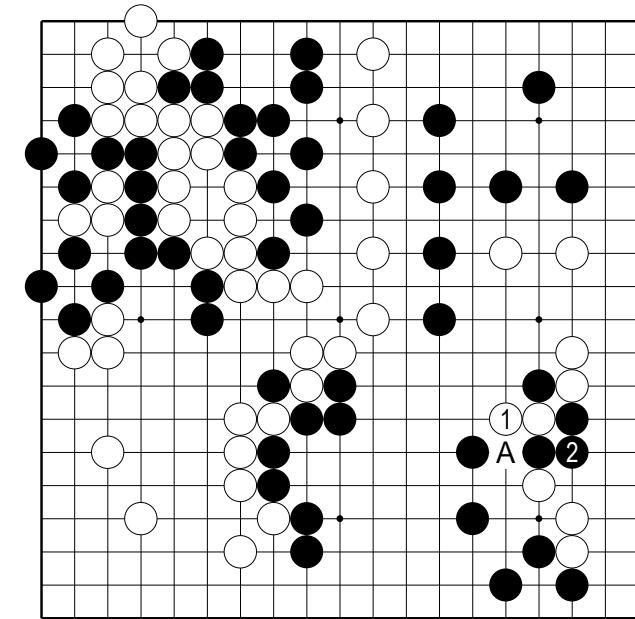
(左図 A)

白1には黒2, 4で良さそうです



ここで白Aなら、黒Bで、白Cと
連絡はされてしまいますが、
黒は白1子を取っているので
何かと厚く、実戦よりは得を
している、と言って良いでしょう。

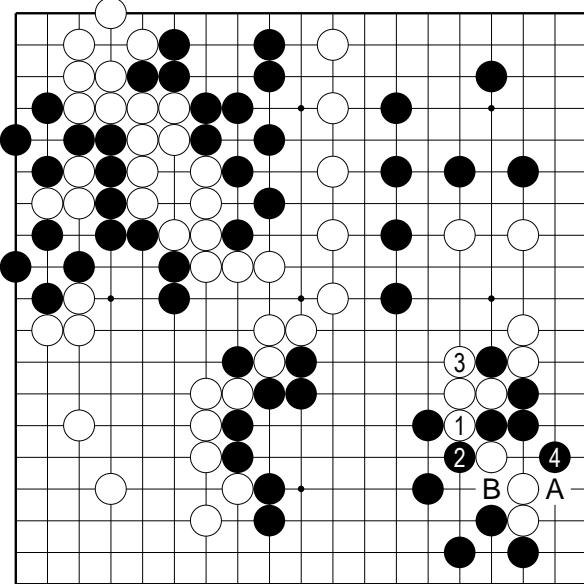
※ただし白は無難に打つなら、
それくらいしかありません。



白1には、黒2とつなぐ手が
あります。黒2をAは、白2で、
あまり黒が上手くいきません。

→参考資料5へ

参考資料 5



(参考資料4から)

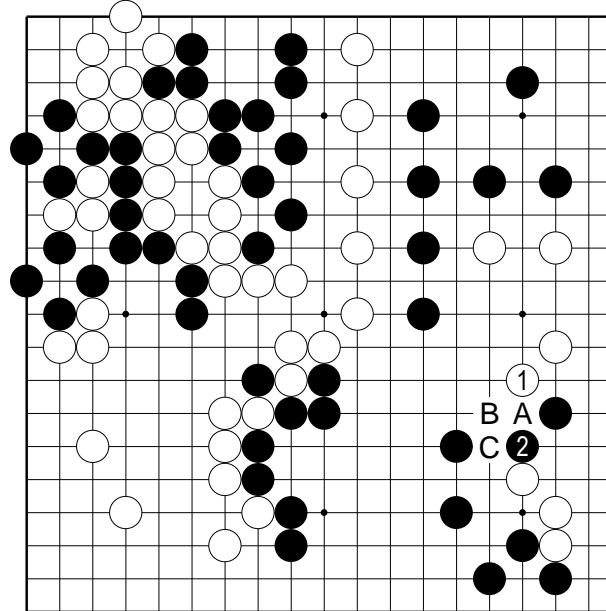
白1には、黒2と切り、ここで白は、
3と戻さないといけません

(打たないと、黒3で、シチョウで取ら
れてしまいしますね)

そこで黒は4で、隅の白3子を
攻め合いで取っています。

(白Aは黒Bです)

これは大収穫ですね！

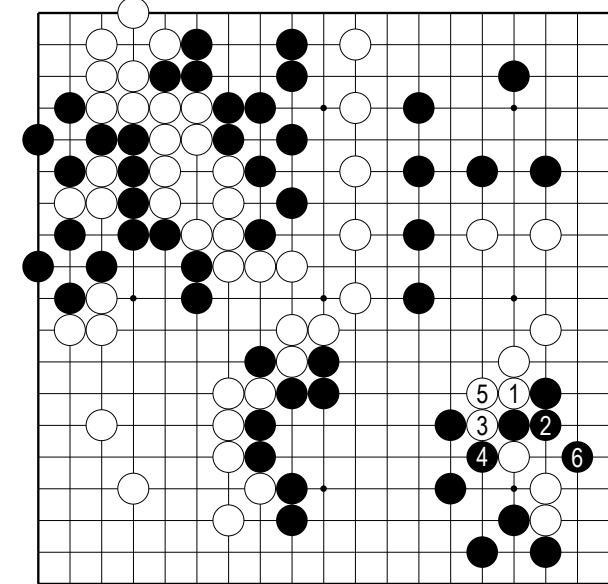


(参考資料4、左図のB)

白1には、黒2と打つ、器用な手が
あります。

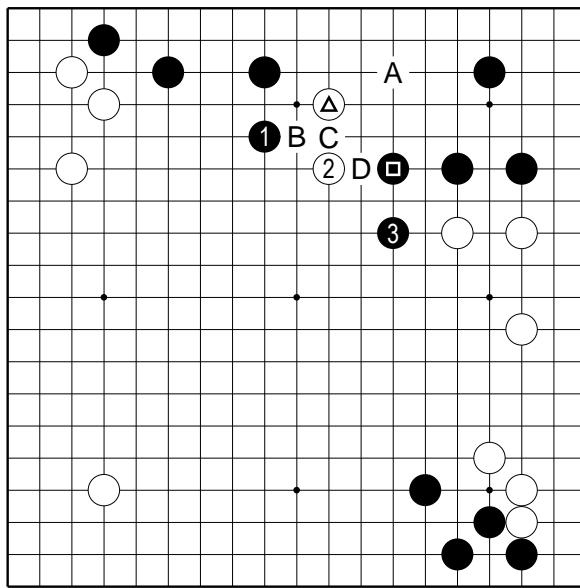


※AIなどでは、黒A、白B、黒Cの方が、
数値が高いようでしたが、
白2に切られるとそれなりに難しいです



白1には、黒2とつなぎ、
結局、前々図と同じ要領です。
黒6までで、白を取っていますね。

好手資料

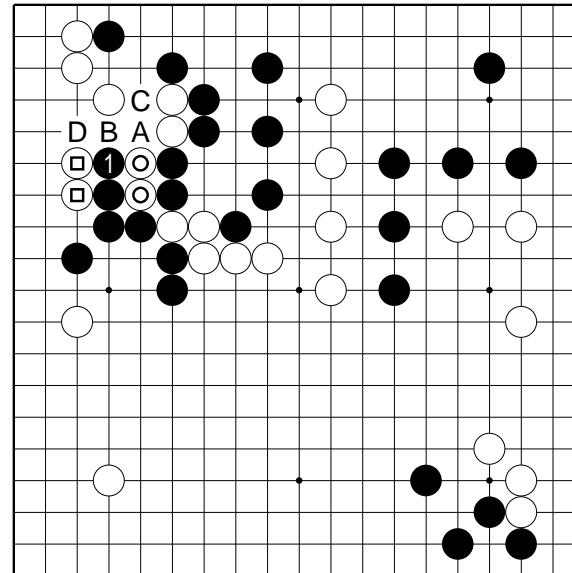


(23、25)

黒1～3は良い方針でした(^-^)

白△の時、黒はAと打っているのも
悪くないですが、黒□と打っているので、
少し堅い感じで、もどかしくもありますよ
ね。

又、黒1をBにカケる案もあり、
最強ですが、白CやDに抵抗された時、
難しくなるかもしれません、好みでなければ、
黒1、3でも十分に良いです。



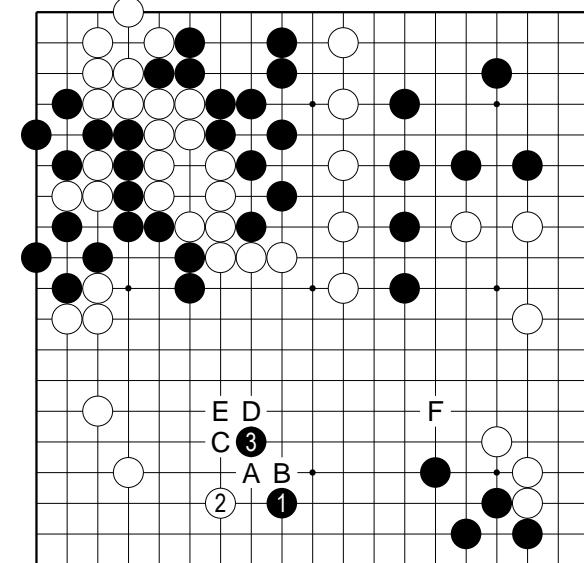
(53)

黒1は、冷静かつ、最善でした！

この場面では、白のふたつの◎2子の
価値が高いです。

実戦のように、白Aとつながせ、
黒B、Dと左辺を破っては、成功です。

一見すると、Aのところに切りたくもありますが、(両アタリのところなので)、
それは白1の方につながれ、左辺の黒1団
が弱めのままなので、右上の白2子を取つても、意外とたいしたことないです。



(83～91)

黒1、3と下辺を広げ、
白C～Eの時、黒Fに打ったのも、
この場面では、足早で、要領の良い
打ち方でした(^-^)

※白Eの後、通常はDの上が双方
好点になったりしますが、
この碁では、上方の黑白の配置
から、その所は、それほどには
価値が高くなかったりします。